

令和6年9月12日
302会議室

令和6年第17回 立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

令和6年第17回立川市教育委員会定例会

- 1 日 時 令和6年9月12日(木)
開 会 午後 1 時 30 分
閉 会 午後 2 時 34 分
休 憩① 無

- 2 場 所 302会議室

- 3 出席者

教育長	栗 原 寛	
教育委員	石 本 一 弘	伊 藤 憲 春
	小 柳 郁 美	堀 切 菜 摘
署名委員	小 柳 郁 美	

- 4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長	齋藤 真志	教育総務課長	臼井 隆行
学校施設建替担当課長	鈴木 信貴	学務課長	澤田 克己
指導課長	佐藤 達哉	主任指導主事	片山 伸哉
統括指導主事	野津 公輝	教育支援課長	高橋 周
学校給食課長	青木 勇	生涯学習推進センター長	庄司 康洋
図書館長	黒島 秀和		

- 5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係	和田 健治	齋藤 綾乃
----------	-------	-------

案 件

1 報告

- (1) 教育支援課の移転について
- (2) 立川市中学生平和学習派遣事業について

2 その他

令和6年第17回立川市教育委員会定例会議事日程

令和6年9月12日
302会議室

1 報告

- (1) 教育支援課の移転について
- (2) 立川市中学生平和学習派遣事業について

2 その他

◎開会の辞

○栗原教育長 ただ今から、令和6年第17回の立川市教育委員会定例会を開催いたします。

署名委員に小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 承知しました。

○栗原教育長 よろしくをお願いいたします。

本日は、報告2件でございます。その他は、議事進行過程で確認をいたします。

次に、出席者の確認を行います。齋藤教育部長、お願いいたします。

○齋藤教育部長 本日、第17回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございます。教育部長、教育総務課長、学校施設建替担当課長、学務課長、指導課長、片山主任指導主事、野津統括指導主事、教育支援課長、学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長、以上でございます。

◎報 告

(1) 教育支援課の移転について

○栗原教育長 それでは、1報告(1)教育支援課の移転について、に入ります。

高橋教育支援課長、説明をお願いいたします。

○高橋教育支援課長 教育支援課の移転について、ご報告いたします。

市の公共施設の再編にあたり、たましんRISURUホールの北側の敷地に健康会館、子ども未来センターの一部、ドリーム学園の機能を集約し、市民の健康や子育てを支える拠点となる新施設の整備を進めております。本年度中に建築工事が完了し、令和7年5月に供用開始となる予定となっております。子ども未来センターへ入居する教育支援課や子ども家庭支援センターも、令和7年5月に新施設に移転することとなります。

事務所の移転に向けた計画的な準備を進めていくとともに、教育相談や就学相談等の利用者に対し周知等を丁寧に行ってまいります。

なお、新施設の愛称につきましては、令和6年6月に「はぐくるりん」と決定されております。正式名称につきましては、令和6年9月の市議会定例会において、施設整備を担当する子ども家庭部子ども家庭支援センターより施設の設置条例案が上程される予定となっております。

報告は以上です。

○栗原教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

石本委員、お願いいたします。

○石本委員 子ども未来センターの一部が、今度新しくできる施設に移転するということですが、どの部署が移転するのでしょうか。

○栗原教育長 高橋教育支援課長、お願いいたします。

○高橋教育支援課長 移転する課でございますが、子ども未来センターに入っている子育て推進課の子育てひろば係です。それから、子ども家庭支援センター、教育支援課になります。また、健康会館に入っている健康推進課、健康づくり担当課、ドリーム学園が行政機能として移転する予定となっております。

以上です。

○栗原教育長 石本委員、お願いいたします。

○石本委員 教育相談機能としては、現在の施設にそのままということなのでしょうか。

○栗原教育長 高橋教育支援課長、お願いいたします。

○高橋教育支援課長 教育支援課も新施設に移転をしますので、令和7年5月以降については新施設での教育相談、就学相談等を行ってまいります。

以上です。

○栗原教育長 石本委員、お願いいたします。

○石本委員 ありがとうございました。

お伺いして、とても素晴らしく、待ち遠しいなと思います。1つの建物の中に健康推進も家庭支援も、それから教育の支援も、特に発達を含めた特別支援を、職員の方が総合的な体制で、ご家庭もお子さんたちも全部まとめてそこでというのは、とても理想的な条件が整っていくと思います。

各部署がきめ細かく連携を取っていただければ、理想の形になっていくと思いますので、1人のお子さんが、1つの家庭が、総合的に手厚くケアしていただけるように、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。

伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 ご説明ありがとうございます。

ドリーム学園が新施設に入るということなのですが、内容や人員、それから、通える人数、そういうところに変更はあるのでしょうか。担当部署が違うことは分かっておりますが、もし分かれば教えていただければと思います。

○栗原教育長 高橋教育支援課長ですが、不明な部分は後で、こちらで調べて後ほど回答しますので、分かる範囲内でお願いいたします。

○高橋教育支援課長 申し訳ありません。詳細については私も把握はしておりませんが、基本的には今の機能が移転すると考えております。

以上です。

○栗原教育長 よろしいでしょうか。

ほかはいかがでしょうか。

小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 質問が2つあります。

ドリーム学園と健康会館が移転するということは、今ある建物はなくなって、新施設に集約されるという認識でよいのかという質問が1つ目です。

もう1つが、これだけ大きいいろいろな組織が1つにまとまるわけなので、来る人もたくさんいらっしゃると思いますが、駐車場のスペースはどのぐらいありますか。遠い所から来る方も恐らくいると思うので、資料裏面のイメージ図を見る限りはそれほど大きな駐車場はないのかなと思ったりしましたが、地下にも駐車場があったりなどありますか。

以上2点、お伺いしたいです。

○栗原教育長 高橋教育支援課長、お願いします。

○高橋教育支援課長 1つ目の質問の健康会館ですが、行政と併せて、こちらに今入っている休日・急患診療所、内科、小児科、歯科休日応急診療所も、新施設に移転をします。健康会館とドリーム学園に入っている全ての機能が移転しますので、元の施設は跡地という形になり、今のところ利活用がまだ決まっていない状況でございます。教育支援課と子ども家庭支援センターが入居している子ども未来センターの事務所スペースについても、跡施設の活用は未定と聞いております。

また、駐車場の台数でございますが、大体30台程度と聞いております。今、関係各課で検討会を立ち上げて、移転に向けた準備を進めていますが、その中で、例えばそれぞれの課で多くの人が集まるようなイベントなどがある時には、日程が重複しないよう、各課スケジュールの分散を今調整しているところでございます。30台の中で収まりきらないというようなことがないよう、入念に調整を進めてございます。

以上です。

○栗原教育長 では、齋藤教育部長から補足をお願いいたします。

○齋藤教育部長 今回、移転後は跡施設になるということで、健康会館やドリーム学園が今、この場で具体的な俎上に上がっておりますが、こうように施設統合をした場合には跡施設が発生し、跡施設の取り扱いについては全庁的な課題として、庁内関係部署で整理していくというところです。現状、跡施設の取り扱いについて具体的な案をご案内できませんが、検討部署についても全庁で検討しているような課題となります。

以上です。

○栗原教育長 私からも少し補足ですが、ドリーム学園は、柴崎町にあり、柴崎福祉会館の隣ですが、今のドリーム学園の建物の中の機能が、そっくり新施設に入ります。

健康会館の中には、高松学習館と高松図書館もございます。1、2階の健康会館の機能の部分は新施設に移りますが、3階にございます庄司生涯学習推進センター長の所管の学習館と黒島図書館長の所管の図書館は移転をしません。ですから、健康会館という建物自体は残りまして、1、2階のスペースが空くという形になります。ただ、いずれは高松図書館、高松学習館のみの、規模を小さくするような建替えをするというのが現段階の計画になります。

建替えが何年後になるか分かりませんが、一旦は今の建物は同じ状態で何年かは残る形になります。

ほかはいかがでしょうか。

堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私も、とても待ち遠しいなと思って聞いておりました。説明ありがとうございます。

教育支援について、立川市は力を入れており、先生方もとてもモチベーションが高くいいなと思っており、子ども家庭部と一緒にいることも保護者にとってありがたいです。一応分離教育ということにはなってしまうと思いますが、そのことによって現状、二次障害を減らしているのではないかと思います。

しかし、長い目で見て、インクルーシブのほうに向かっていかなければいけないのかなと思った時に、障害をお持ちの方への理解を推進するようなことは、どの部署がやっているのかを、お聞きしてもよろしいでしょうか。

○栗原教育長 高橋教育支援課長、お願いします。

○高橋教育支援課長 障害をお持ちの方に対する理解と啓発の活動をしている部署ですが、庁内では障害福祉課が主体的に担当しており、学校教育の中ですと教育支援課がそういった特別支援教育の理解促進、理解啓発といった活動を進めているところでございます。

以上です。

○栗原教育長 堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 ありがとうございます。

共生社会に向けてとなった時に、医療や保健、福祉という分野も、恐らくこの施設の中に入っており、では労働とのつながりはどうなっているのだろうと思ったら、きちんとキャリア教育もされていて、例えば職業体験を障害者雇用しているようなところでさせていただけるということで、とてもいいと思いました。

キャリアコンサルタントとして、セミナーなどでよく聞くのが、大人の方も、大人になってから発達障害が分かり、働いていて、具体的にこういうことで困っているという事例が今どんどん積み重なってきているので、ぜひそういう部分でも社会全体での理解が必要だと思います。それから、大人になった時に、こういうところが困るというので支援教育の部分で役立てられることもあるかと思いますので、そのあたりもお願いできたらと思いました。

以上です。

○栗原教育長 意見ということで承ります。ありがとうございます。

成人になってから発達障害が分かるということを新聞などでそういったことに関する記事を読むことがあります。大変苦勞されているという内容でした。先ほどの障害福祉課という課の名前が出ましたが、そちらの部署で、委託事業になりますが、障害者の就労支援事業をやっています。知的障害や肢体不自由、精神障害、おそらく発達障害の方も含めて、新規就労、また就労しているけれども、職場の中で働きにくいという中での就労継続といった支

援も障害福祉課で行っております。堀切委員が今おっしゃった心配事ですが、そのセクションが今推進しているところでございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

[「ありません」との声あり]

○栗原教育長 ほか、ないようでございます。

これで1報告(1)教育支援課の移転について、の報告及び質疑を終了いたします。

◎報 告

(2) 立川市中学生平和学習派遣事業について

○栗原教育長 続きまして、1報告(2)立川市中学生平和学習派遣事業について、に入ります。

庄司生涯学習推進センター長、説明をお願いいたします。

○庄司生涯学習推進センター長 それでは、立川市中学生平和学習派遣事業につきまして、まずは紙の資料で説明し、後半は私より、写真をスライドにして、プロジェクターで投影し、事業当日の様子をご紹介しますと思っています。

まず事業概要でございます。市内の中学生が被爆地である広島を訪問し、原爆ドームや平和関連施設を見学、被爆者の方から講話をいただくなどの平和学習を行い、広島で見て、聴いて、感じたこと、及び平和について考えたことを在籍校や市民の方に発信するものでございます。

この派遣事業でございますが、生涯学習推進センターのほうで平成30年度から実施してございます。平成30年度、31年度と実施しまして、令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症の関係で中止となっております。令和4年度に再開しまして、それまでは1泊2日の行程でしたが、令和5年度からは、2泊3日で実施してございます。

実施日時でございます。7月20日土曜日に、保護者の方もご参加いただきまして事業学習会及び事前説明会を行いました。今日、この後スライドで紹介するのは、主に事前学習会と、8月18日日曜日から20日火曜日の当日の派遣の状況をお伝えしたいと思っております。

派遣後、事後学習会、報告会準備を数回行いまして、報告会を令和7年1月25日土曜日の立川教育フォーラムの中で、参加生徒が皆さまの前で発表するという流れになってございます。報告会に加えて、他の参加しなかった生徒への発信という部分が非常に大事ですので、在籍校での発表も行っています。私も昨年度、拝見し、大変堂々とした発表をしていました。

参加者でございますが、今年度の参加者は男子4名、女子5名でございました。1年生の女生徒が1名、2年生、3年生がそれぞれ4名ずつで、男子女子2人ずつでした。

募集方法でございますが、市内各中学校に生涯学習推進センターからチラシを配布しております。作文を書いていただくことが応募の条件です。その採点結果により、各中学1人という狭き門ではございますが、選考してございます。統括指導主事と主任指導主事と私の3人で作文を選考しました。応募者は20名で、平成30年度からなのですが、応募者が20人か

ら 30 人の中で大体収まっております。なかなか応募人数が伸び悩んでいるような状況でございます。

中学校の校長先生に聞いてみたのですが、大きい要因としては、3 年生は部活動があったり、報告時期が受験シーズンにぶつかってくることで応募が難しいのではないかと。あるいは、学校の代表となることのプレッシャーであるとか、家族旅行を企画できない段階でということがあったりして、少しそのようなハードルがあるのではないかと。ということは聞いてございます。しかし、派遣の時期をずらすことは非常に難しく、8 月 6 日に原爆が投下されたということもあり、夏の時期に様々な平和関連の事業をやっていること、中学生が参加しやすい環境となりますと、この時期がいいのではないかと考えております。

同行者ですが、今年は酒井市長にご参加いただき、市長随行者として秘書課長が同行しました。教育委員会の事務局職員からは 4 名、実は私は今回参加しておらず、佐藤指導課長に同行していただきました。それから、生涯学習推進センターの係長職の職員が 3 人同行しております。この後のスライドでの紹介も佐藤指導課長にサポートしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

行程の概略です。初日は、立川駅を 8 月 18 日曜日に出発しました。校長先生との相談の中で、日曜日出発で家族の方が見送りできるというのが一番いいのではないかと、加えて、3 日目の帰ってくる時間は、夜、仕事が終わってお迎えになれる方もいらっしゃるのではないかということで、日曜日～火曜日といったスケジュールを例年から組んでいるところでございます。基本は、広島の実地では路面電車の移動になります。

それでは、スライドを使ってご紹介したいと思います。

生徒の発表がメインですので、今回ネタバレにはなってしまいますが、ぜひ 1 月の立川教育フォーラムでの生徒の発表を楽しみにしていただき、今回は参考に見ていただければと考えております。

それでは、写真での簡易的な紹介になりますが、よろしくお願いします。

先ほど、最初に事前学習会兼事前説明会を行うとお話させていただきましたが、そこで事業の趣旨をご説明いたしました。生徒と全ての保護者の方にご参加いただいて、一緒に事業の説明を聞いていただきました。

この写真は、昨年度の様子をスライドで紹介させていただき、事業概要を説明している場面です。

後半は、生徒だけになりまして、写真の中で、正面に座っている中学生は昨年度の参加者の一中のヨシダさんと、二中のイイジマさんで、3 年生です。今年からこういう形式にしたのですが、昨年度参加した生徒の中から代表の方に来ていただいて、感想や注意点など思ったことを色々話してもらった形式にしました。これが非常に良い取組で、参加者の生徒・保護者は、これが参考になり、事前学習会の一つの大きな意義になったかなと考えております。例えば、暑い時期ですが、やはり上着も持っていたほうがいいなど、そういった細かい話も含めて彼女たちが説明をしてくれました。

この日は、事前学習会ということで、講演会も開催してございます。市民の方もご参加できまして、もしかしたらご存じの方もいらっしゃると思いますが、栄町の佐藤さんという、広島で被爆された方がいらっしゃいます。90歳をすぎている方でいらっしゃいますが、当時呉のほうにお住まいで、たまたま広島に電車で来ていた時に被爆したという体験をお話してくださいました。中学生に平和の大切さや、戦争の悲惨さ、具体的な当時の広島市内の様子をお話いただきまして、中学生たちに加え、市民の方にも聞いていただきました。

こちらの写真に写っている方が佐藤信子さんです。佐藤さんに実際に話をさせていただいて、じっくり生徒が話を聞いている様子でございます。

この時、ちょうど戦争と平和の展示中でございまして、展示の所で説明をさせていただいています。こちらの写真の中学生の皆さんの周りの台に置いてあるものは、八王子の資料館からお借りした、当時被爆した中学生の制服です。被爆された時の制服は、とても貴重で、実際に被爆の際に着ていた洋服等の展示を皆さんに見てもらい、その説明をうけているところでございます。併せてさまざまな展示がありますので、そちらを見ていただき、皆さんに実際に感じていただきました。こういった取組を事前学習でしているところでございます。

マスクをしている男性の方は、ピースボランティアの方です。この方は被爆された方ではないですが、ボランティアで広島の前爆投下の様子をお話しされており、事前学習会でも当時の広島の様子であるとか、その方が知っている様々な情報を中学生に伝えてくださり、中学生たちもしっかりその話を聞いておりました。こちらは柴崎学習館の地下のサブホールでございます。

続きまして、当日の派遣の様子に移ります。

こちらの写真は、8月18日日曜日の出発の様子です。出発式ということで、グランデュオの前に集合し、教育長より生徒や保護者の方等に、出発のご挨拶を頂きました。

少し朝早いのですが、この時間ですと駅はすいていますので、ちょうどいいのかなと思っています。

こちらの写真は東京駅の中でございます。東京駅で市長も合流しまして、市長から一言ご挨拶を頂きました。

お昼は新幹線の中でお弁当を食べました。

広島駅に着きまして、広島ガーデンパレスという、広島駅から歩いて10分少しぐらいの所にあるホテルに宿泊します。昨年と同様のホテルになります。非常に暑い日でございました。

路面電車での移動です。平和記念公園に行くのに、一回広島駅に戻りました。

路面電車に戻ってきまして、ガイドの中川さんという方に広島平和記念公園内でお話を頂くところでございます。公園内のさまざまなポイントをご紹介いただきながら、当時の被爆の状況をお話いただくという取組です。こちらの写真は最後にお礼のご挨拶をしているところでございます。

こちらの写真が公園内の散策の様子でして、所々で被爆地の状況、市内の状況というのを話ししていただいたところでございます。

被爆前後の写真を比べ、当時の様子をご説明いただきました。

こちらは島内科医院という所で、爆心地と言われている所です。原爆投下された所は公園内から少し外れた、島内科医院の上空約 600 メートルの所で原爆が破裂したということのお話をしていただきました。

広島には大きな川がございますが、この元安橋の橋梁が残っている場所があり、ご説明をしていただいている写真です。

こちらは参加した中学生と中川さんと市長の写真です。

こちらは平和の鐘という所でご説明いただいている写真と、男子生徒と女子生徒で鐘を突き合っている写真です。

こちらが供養塔で、いまだに遺族が分からない方がたくさんいらっしゃるというご説明を受けました。

こちらが韓国人原爆犠牲者の慰霊塔というご説明がございました。

広島原爆死没者追悼平和祈念館という施設にも一部入り、施設のご案内をしていただきました。広島市内の原爆が投下された当時の写真が 360 度、壁に展示されている施設でございまして、そちらを見ながらご説明いただいているところでございます。

最後に、こちらが広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の前でございます。献花ができる場所になっており、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という言葉が刻まれています。

この日の最後には、皆さんでお花を用意して献花をさせていただきました。

今回の行程では、それぞれ食事の時の挨拶や、お話ししていただいた方への挨拶などの役割分担を設けていまして、最後に代表生徒の 1 年生から、ご案内いただいたガイドの中川さんにお礼の挨拶をしている写真でございます。

この後、広島平和記念資料館を 1 時間ほど見学しました。非常に多くの方が見学されていまして、なかなかじっくり見ることはできなかったのですが、1 時間の中で要所を見ていただき、その後それぞれの生徒のペースで見たというような状況でございます。

資料館からホテルに戻りまして、夕食の時間でございます。

この日の夜は夕食後 1 時間ほど、市長と中学生たちで、平和についてと、学校教育について、歓談の時間がございました。生徒たちにとって原爆の追体験ができたことはとても有意義で、非常によい経験ができたのではないかと、市長からも感想を頂いております。

加えて、市長がおっしゃっていたのが、非常に暑い日だったので、生徒の体調をとて心配していたが、体調を崩すような生徒もおらず、とても安心したということでした。

一方で中学生たちの初日の感想ですが、平和について、願うだけでは駄目で、しっかり事実を伝えていく必要があるということで、さまざまな声が寄せられたところでございます。

また、学校の行事の話で、例えば、中学校で文化祭ができないか、夏休みの宿題に作文がいくつも出ているなど、そういったかなり現実的な話もあり、さまざまな学校の実態を感じることができてよかったと市長もおっしゃっていました。

これが1泊目でございます。

2日目でございます。2日目は、2つの施設と世界遺産の宮島の見学をしました。

1か所目の施設が、本川小学校平和資料館でございます。原爆投下の際に爆心地に最も近い学校として実際に大きな被害を受けた学校でございます。校舎骨格を残して全焼・壊滅して、校長ほか10名の先生方と400名の子供たちが一瞬のうちに命を失った施設でございます。こちらは、ガイドの方にその説明をしていただいている写真です。中学生はとても一生懸命に聞いておりました。校舎の形なども、展示を用いて分かりやすく説明をしていただきました。被爆前の様子の写真も用意していただきました。

慰霊碑があり、皆さんで手を合わせました。

施設の中ですが、当時の状況をそのまま残しており、そこにさまざまな展示があり、ご説明をいただきました。

さまざまな展示物が各資料館にありますが、本川小学校平和資料館にも、溶けたガラスの塊などが展示されております。

こちらの写真の模型ですが、もともと広島平和記念資料館にあった模型を移設したと聞いてございます。結構大きな模型ですが、市内の被爆時の様子が再現されており、被害の様子がよく分かるものになってございます。

こちらでも担当の生徒がガイドの方にお礼を伝えました。

本川小学校平和資料館の全体の写真です。

そこから移動しまして、旧日本銀行広島支店の横を通りました。こちらも被爆した施設です。次に見学したのが袋町小学校平和資料館でございます。こちらは、原爆投下により、木造校舎が倒壊・全焼しまして、鉄筋コンクリート3階の西校舎のみ残して焼失してございます。約160人の教職員・児童が朝礼直後に被爆して、ほとんどの方が犠牲になったと聞いてございます。

その入り口です。

こちらはガイドの方がいるわけではないため、展示物を生徒たちが自由に見学しました。こちらモニターでさまざまな説明がありました。

当時残った校舎の一部は、避難所となっており、被爆直後にこちらの壁面に学校のチョークなどで「誰々を探しています」のような、家族などの安否を確認するための伝言が残っております。こちらが黒板に書いてある伝言でございます。こちらの写真は皆さん、壁面を見ているところです。ここは小学校でしたので、卒業して間もない生徒たちはじっくり見えました。

最後、受付の方に帰り際にご説明いただいたのが、当時の被爆の状況と、被爆後に台風が来たという話をいただきました。本来説明はしないのですが、特別に立川の中学生に説明をしていただきました。

広島駅に一旦戻りまして、市長はここで公務がございますので、帰庁しました。お別れの時の写真です。

生徒たちはこの後、宮島に向かいました。宮島の船の中の写真です。到着後、食事を取るお店の方がガイドをしてくださるお約束になっていましたので、そのガイドの方との様子の写真です。

昼食を取りまして、厳島神社の所で写真を撮りました。ちょうどこの時間が干潮で、下まで行けまして、海といいですか、下に降りて写真が撮れる状況になっていました。干潮はこの時期なかなかなく、非常に珍しいので、下まで降りて写真を撮りました。厳島神社も、この写真のようにガイドの方にご説明いただきながら見学をしました。

その後、商店街が宮島にありますので、商店街で少し自由散策をしまして、ホテルに戻りました。

帰ってきました夕飯の時間です。

2日目の夜は、佐藤指導課長から、2日間を振り返ってということで取組の話をまとめていただいたところでございます。

次が3日目になります。最終日でございます。

最終日は、まず朝食を取りまして、体験講話の聴講になります。原爆を語り継ぐ会の田中聡司さんという方で、中国新聞社の論説委員もやっている方です。広島市史などの執筆にもあたっているそうです。被爆当時は1歳5カ月で、母の実家の広島で被爆をしたということです。実は、その被爆後、東京に来て昭島に住んでいたそうです。立川を通して通学をしていたそうです。被爆者への差別を経験したというお話をされていました。被爆によるがんを患い、今でも発病の恐怖と闘っているという話でした。お母さんの家族6人のうち、4人が被爆で命を落としたというお話を聞いております。病気だけではなく、差別や貧困も実態の一つで、中学生に対して、平和についてしっかりと考えることが周りの人や自分自身を傷付けないことにつながるというようなご説明を頂きました。

代表生徒からお礼のご挨拶をしているところでございます。

最後、集合写真を撮らせていただきました。

恒例なのですが、最後はお好み焼きを食べるということです。お好み焼き村というのが市内にございますので、そちらでお好み焼きを食べて、最後は記念写真を撮って広島駅から新幹線で立川に帰ってまいりました。無事、何事もなく戻ってまいりました。

この日は、立川一中の飯田校長先生なども出迎えに来ていただいて、もちろん保護者の方、大勢の方が来ていただいて安心いたしました。特に大きな事故もなく、体調を崩す生徒もおらず、皆さん帰られました。生徒だけではなくて、保護者の方も本当に穏やかな表情で皆さん迎えに来られたというのが印象的でした。

以上でございます。

先ほども申し上げたとおり、事前学習会と、3日間の広島での学習を中心に発表をさせていただきましたが、これから生徒たちは事後学習会、立川教育フォーラムでの発表、そして在籍校での発表等を行います。その中で多くの生徒たち、多くの市民の方に伝えていく役割がございますので、私ども生涯学習推進センターとしても、見届けたいと思っています。

中間的な発表になりますが報告とさせていただきます。ありがとうございました。

○栗原教育長 説明ありがとうございました。

佐藤指導課長から何か補足はありますか。

○佐藤指導課長 たくさん説明していただいたので、何かご質問等があればということなのですが、初日は非常に暑くて、私も今年で3年続けて行かせていただいたのですが、3年間の中で一番の暑さの初日でした。本当にその中で広島平和記念公園、またそういった施設の見学に生徒が本当に前のめりに平和学習に取り組んでいる姿を目の当たりにして、非常にうれしく思った次第です。

また、この時期に行く意味といいますか、日にちは少しずれますが、実際に原爆投下があった8月、暑さも含めて体験するという部分に非常に価値があったのかなと思っております。熱中症等には十分に気を付けて対応させていただきました。

やはり庄司生涯学習推進センター長の説明にもございましたが、海外の方もたくさんいて、広島平和記念資料館は本当にたくさんの人が見学されておりました。そのような中でも、自分の見たい所、また自分の一番気になった所をじっくりと食い入るように見る姿、そういった姿がたくさん見られました。

毎回違う方がガイドしてくださるのですが、ガイドの方の説明も非常に分かりやすく、そういったところもよかったなと思いますが、今回最後にガイドの方が折鶴をくださいました。折鶴というと佐々木禎子さんですね。

鶴を1,000羽折ると願いがかなうというところを信じて鶴を折り続けた、その折鶴も展示されているのですが、実際の折鶴は本当に小さくて、どのような紙を使っていたのか、そのようなところまで含めてお話ししてくださいました。処方された薬が包まれていた紙、本当に小さい紙で丁寧に丁寧に鶴が折られていました。今回ガイドをしてくださった方のお母さまが、平和を願って鶴を折って記念にくださいました。自分が折る鶴と違って、ぱたぱたと飛んでいるような形になる、このような折鶴を記念にくださって、私も大事に取っておいております。

初日は、その後ホテルに戻りまして、先ほど写真にもございましたが市長との懇談、当初予定は45分でしたが、1時間の懇談の機会を作らせていただきました。市長からは、「戦争での死、また通常での死、違いは何があると思う？」などいろいろな問いかけもされつつ、戦争で語られるというのは、統計上の数字で表されてしまうというような話をされていました。加えて、ご自身の信条や政治家を志された理由には、お母さまが「政治が悪いと戦争が起きる」といつも言われていたことが残っていると話され、対話が重要だ、外交戦が、話し合いが大事なのだということを市長ご自身の言葉で語られていました。

それから、さまざまな情報が流れている中で、しっかり自分で判断することが大事だという話もされておりました。学校生活のことなども含め、中学生と広く懇談しており、市長のほうから質問を募集するような時間もあり、1時間に及ぶ懇談会となりました。

2日目は、先ほど申し上げたように小学校を2校見学し、宮島にも行きました。昨年度、

2泊3日の行程になってから加えられた行程なのですが、潮が引いているところを今回はタイミングよく見られたので、生徒たちは、そういったところも含めて、戦争、平和の学習に加えて文化遺産の見学においても非常にいい体験ができた喜んでおりました。お土産の購入も非常に楽しそうでした、生徒としては今回の目的の一つと言っていいくらい楽しみにしていたようです。

2日目の夜には、今回のまとめをさせていただいたのですが、生徒にはとにかく、この2日間で印象に残ったことを、結論から、そして、その理由、最後に一言ということで、短くまとめて、1月の立川教育フォーラムでの発表を意識したような内容で振り返りをしてもらいました。

3日目につきましては、先ほど被爆された方の体験講話ということでお話を頂きました。このあたりは非常に立川教育フォーラムの発表でも中心になってくるところだと思うので、詳しく話しませんが、1点、生徒の中にも私の中にも残ったのが、過去の話ではなくて、今も戦争がいろいろな所で起きている中で、同じ時代に生きていると思って私の話を聞いてもらいたいという話からスタートされていました。詳細については、また1月の立川教育フォーラムでの発表を非常に楽しみに待ちたいと思います。

とにかく今回、大きな事故やけががなく、無事に戻ってこられたことが何よりだと思っております。

少し説明が足りないところがございますが、以上となります。

○栗原教育長 佐藤指導課長、ありがとうございました。

それでは、今の説明を含めて、ご意見と感想という形になりますが、何かございましたら皆さん、お願いいたします。

伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 本当に1月の立川教育フォーラム、楽しみにしたいと思っています。

○栗原教育長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 本物を見る、本当にある物を見るというのは、話に聞くよりとても勉強になると思います。私は広島へ行ったことがないのですが、福島の津波に遭った震災遺構などを見ると、話だけを聞くのと実際に見るのとではやはり違うというのをその時に実感したので、子供たちにとって、とてもいい経験だったかなと思います。

1点だけお願いなのですが、募集で応募者が20名いらっしゃったということで、3年生は受験シーズンと重なること、部活で忙しい、などの要因はしょうがないとして、学校の代表としてのプレッシャーのようなところが応募しない理由になるのは少しもったいないと思います。もっと気楽にぜひ応募を、という感じにはならないのでしょうか。各校1人なので、もしかしたら先生たちもプレッシャーをかけているのかもしれないですが、少しでも興味があるのだったら応募してみたほうがいいし、プレッシャーで応募しませんでしたならないように

してもらえたら、子どもたちにとってもいいと思います。

意見です。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

庄司生涯学習推進センター長、今、小柳委員からの募集のご提案に何かございましたらお願いします。

○庄司生涯学習推進センター長 答えとは少し違うのかもしれませんが、例えば去年参加された9人の生徒たちの様子を見ていたのですが、とても目立つ生徒もいれば、おとなしいな、あまり発言しないなという生徒、様々な生徒たちが、だんだん発表などを通して、成長していく姿をとっても感じたのです。こういう体験をすることによって成長につながるような効果があるのではないかと思います。

学校の代表として行き、立川教育フォーラムのような場で発表する機会はなかなかなく、こういった体験をすることによって成長するということはとてもいいことだと思うので、そういうところを、こちらから発信し、確かに大変な思いはするけれど、それが自身の成長につながるというところは、次回の募集の際、何かもう少し付け加えることができるといいなと感じたところです。今、小柳委員からいただいた話を参考にしながら、あまりプレッシャーを感じずに、この経験でとても成長したという、いいところを伝えられるといいなと思っています。

現に、昨年発表が終わった後に少し生徒たちと話をする機会があったのですが、2泊3日の広島での学習を終えて帰って、その後立川教育フォーラムでの発表が終わって、とても自信が付いたという子が何人かいたのです。そういった経験が子供たちの成長につながっていくのだなというのを感じましたので、工夫してまいりたいと思います。

○栗原教育長 ご意見ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。

堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 行程についてもいろいろな部分、日曜日に出発すると見送りができるとか、見学先なども考えていただき、ありがとうございました。去年参加した生徒たちにアドバイスをもらえるというのはとてもいいなと思っています。去年行った方々が、このように成長できたというのを募集の時にお知らせするというのはどうなのかと思いました。

○栗原教育長 庄司生涯学習推進センター長、お願いします。

○庄司生涯学習推進センター長 実は、今年募集する時に、去年行った生徒たちの感想までは書いたのですが、チラシも、情報が多過ぎると子どもたちがあまり見ないかなとも思っていました。もう少し工夫をして、例えばチラシ自体はコンパクトにし、ホームページのURLなどから、去年行った生徒たちの感想であるとか体験だとかを見れるようにするなど、今考えているところですので、引き続き考えていきたいと思っています。

○栗原教育長 引き続き、堀切委員、お願いします。

○堀切委員 よろしくお願ひします。

各中学校で1名選考するという人数はもちろん増やせないと思いますが、3回チャンスがあるということでもいいですね。

立川教育フォーラムで、去年初めて発表を聞いた時に、子供たちが体験した生の言葉で発信されることというのはものすごく刺さるなと思ったのです。最後に講演会があり、その前に子どもたちは途中で帰られますね。感想に書いて送ったのですが、子どもたちにフィードバックできたならよかったなと思います。謝辞の終わりの言葉のようなタイミングで、石本委員が子どもたちの発表がすごくよかったとおっしゃっていたと思いますが、何か子どもたちに大人に影響を与えられた、ではないのですけれども、何かフィードバックできたなら嬉しいと思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

石本委員、お願いいたします。

○石本委員 もし可能ならということですが、堀切委員や小柳委員のお話を伺っていて、ぜひ子供たちから直接ビデオメッセージのような、何かそういう方法も活用できないかなと思ったので、ご検討いただければありがたいです。

○栗原教育長 ありがとうございました。

教育委員の皆さまから、さまざまご提案をいただきました。検討させていただいて、実現できるご提案はつなげていきたいと思います。

今年度は行かなかったのですが、去年、私も今年度行った所と同じ所を巡ってきました。先ほど庄司生涯学習推進センター長より、袋町小学校平和資料館の壁に伝言が書いてあるとお話がありましたが、「行方不明になっている息子の何とかを探しています」、また「自分は今ここにいます」というご家族などにあてたメッセージを壁面に伝言として書いているものが後から見つかったのです。当時の状況がよく表れているということで、レプリカで写したものが展示されています。実際にそういったものが出てきて、それが非常に当時の状況、原爆投下後、皆さんがどういう思いをしていたかというのが分かる、本当に貴重なものです。

ほかはよろしいでしょうか。

[「ありません」との声あり]

○栗原教育長 ないようでございます。

これで1報告(2)立川市中学生平和学習派遣事業について、の報告及び質疑を終了いたします。ありがとうございました。

次に、その他に入ります。その他はございますか。

[「ありません」との声あり]

○栗原教育長 その他はないようでございます。

◎閉会の辞

○栗原教育長 それでは、次回の日程を確認いたします。次回第 18 回立川市教育委員会定例会は、令和 6 年 9 月 26 日木曜日 13 時 30 分から、208・209 会議室で開催いたします。

これをもちまして、令和 6 年第 17 回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後 2 時 3 4 分

署名委員

.....

教 育 長